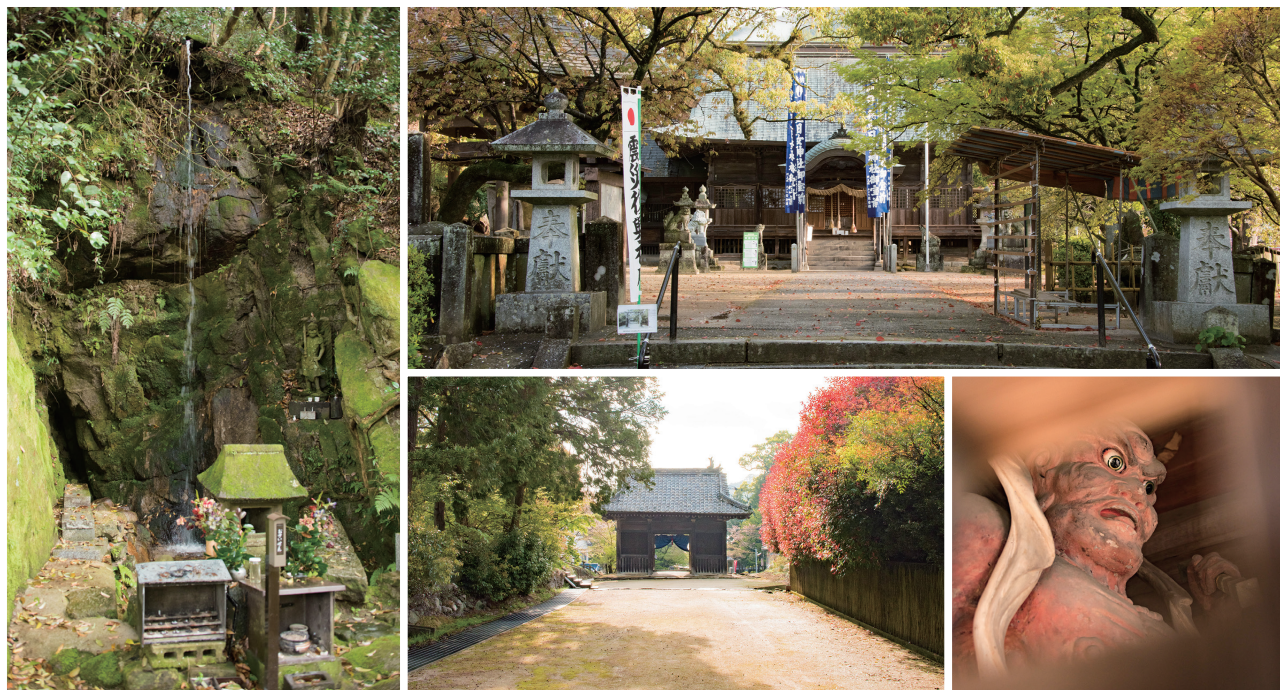


「佐嘉」の由来の大楠

散歩のスタートは「與止日女神社」。境内の横を流れる嘉瀬川上空には約3百の鯉のぼりが早朝の光を受けて「泳ぐ」。同神社は古墳時代の564年に創建。平安時代から「肥前国一宮」として崇められてきた。どっしりした本殿の周りを楠の巨木が囲む。奈良時代の713年に書かれた肥前国風土記によると、日本武尊がこの辺りを訪れた際、楠が茂り栄える様子に感銘を受け「この国を榮の国と呼びなさい」と話したという。それから「榮の郡」と呼ばれるようになり、それが転じて「佐嘉の郡」という名前になったとのこと。つまり「佐賀」という地名の由来は、この辺りだった可能性が高い。境内の楠の巨木は、古代の雰囲気濃厚に伝えてくれる。

次は境内から道を挟んだところにある平安時代1087年創建の「実相院」へ。道路から見える仁王門は江戸時代前半に作られた。門の左右にある格子の中に目をこらすと、大きな目玉が上からギョロリと睨んでいる。高さ約2.6mの寄木造の仁王像だ。開口の阿形像と、口を結んだ吽形像は色鮮やか。以前は腕や天衣が落ちてしまっていたが、1996年に修復されたという。

門を抜けると予想以上に大きな参道が現れる。実相院が最も栄えていたとされる室町時代には、約80カ所の施設があったという。その歴史を感じさせる敷地の広さだ。門の前を車で通るだけでは分からない。参道を登るとお堂がある。ちょうど毎年4月10日から20日まで行われる「お経会」が行われて、いろんな企業の名前が書かれた燈明が境内に飾られて



“生”狛犬守る不動さん

畑とため池が点在する山裾の道を歩き、ゴルフ場へ続く車道を行く。久しぶりの運動なのでゆっくり登る。少し山道をのぼると「お不動さん」と書かれた案内板が。そちらに曲がりしばらく行くと、鬱蒼とした森の中に「水上山万寿寺」が現れる。平安時代1130年に創建された万寿寺は「お不動さん」という名前で地域の人々に親しまれている。

境内に入ると、どこからともなく水の音が聞こえてくる。耳を澄まして進む。参道の左手、鯉が泳ぐ清廉な池の先に、崖の上から落ちる滝の姿が現れる。岩肌には苔むした不動明王像。滝壺からの優しい風が30分ちよつと歩いた体に心地よい。参道に戻り本堂へ。本堂を眺めていると、どこからともなく二匹の犬がやってくる。吠えるわけではないが警戒されている模様。まるで“生”狛犬。しばらく休んで階段を降りる間も、ジッと見つめられていた。なにやら不思議な感じがした。

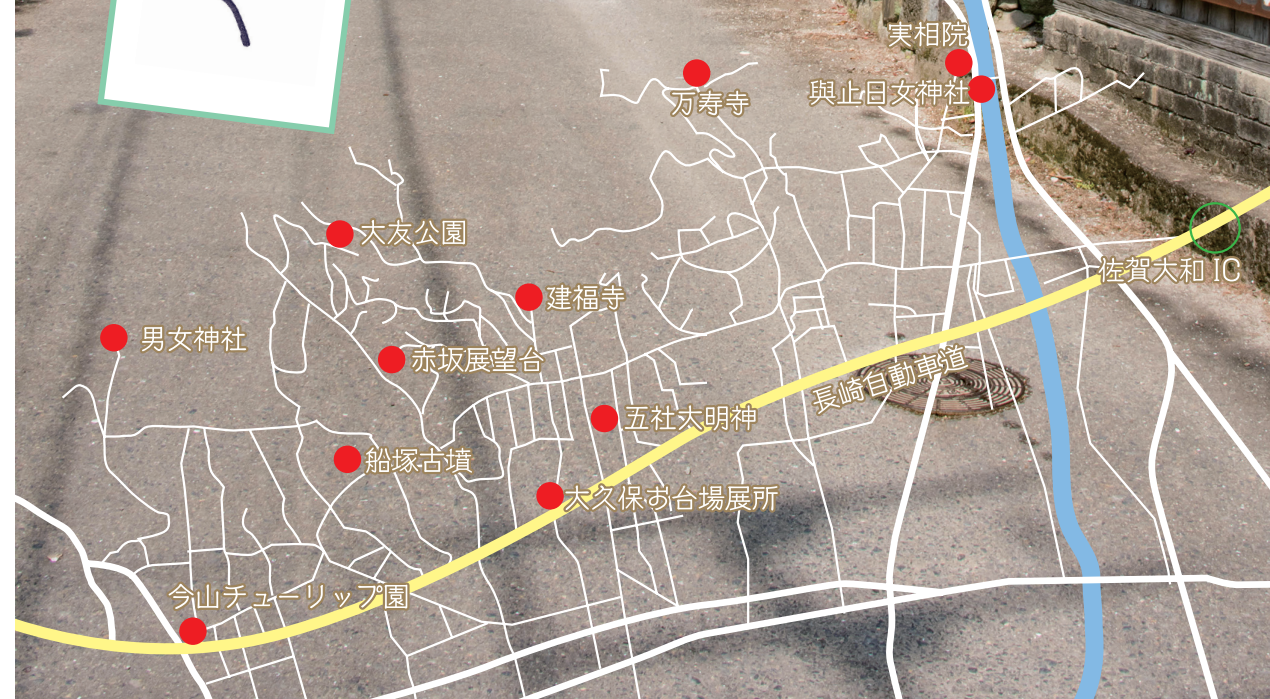
珍しい倉庫に導かれ

来た道を引き返し、小城方面へ進む。山の上の方まで連なるミカン畑を右手に見ながら、山際に沿ってゆるやかに上下する道を進む。ところどころにある神社やお寺を眺めながら30分くらい歩くと、なに

大和町川上地区は、古代の政治の中心地である「肥前国府」に近いこともあり、古墳時代から現在まで千五百年の歴史を刻む風情溢れる地域だ。しかも、古代、近代、現代を象徴する出来事と場所が、途切れることなく存在しているという。暖かくなったら、運動不足解消のためにも、ちよつとあの辺りを“散歩”してみよう。

特集 春の大和町川上

千五百年の山辺を歩く





やら趣のある集落に差し掛かる。色あせた黄色い壁と斜めに切り取られたエントランスが印象的な大願寺集落公民館には「かわかみ流 勝手に見守りたい活動実施中」という部分になにやら郷土愛を感じてしまう。ちよつとこの集落をぶらぶらしてみよう。

まず右手に曲がり、山手にある「健福寺」へ。参道の手前にある家の側溝に流れるきれいな水が桜の花びらを運んでいく。そこから急な坂をのぼり本堂へ。ちよつと日本最古の歴史書「古事記」が成立した奈良時代712年に成立したとされる同寺は、日本で初めて僧の最高位である「大僧正」になった行基が開基したと伝えられている。奈良・東大寺造立の責任者を務めたほか、貧民救済・治水・架橋などの社会事業に従事した、教科書にも出てくる

偉人も、この道を歩いていたかと思うとちよつとだけ足取りも軽くなる。当時はたくさんのお堂が立ち並び「真手千坊」と呼ばれていたという。

本堂の右手にある鐘楼にはちよつと小さめの古びた鐘がある。鎌倉時代初期に作られた県内最古の銅鐘であり、国の重要文化財に指定されている。鐘は本来、僧に集合を知らせる合図に使用していたという。それだけたくさんのお坊さんが修行していたのだろうか。

大願寺集落を歩いていると、農家が多いのか、倉庫みたいな建物が目につく。中は縦に仕切られているようで1階部分に複数の木の扉があり、庇屋根を挟んでその上には窓がある。珍しいスタイルだ。素材も下はレンガやコンクリートブロック、上は土壁や木材など、いろいろなバリエーションがあつ

て見飽きない。

倉庫に誘われるようにウロウロしていると、換気用の小さな屋根を3つ乗つけた木造の倉庫に出合った。いろんな方向から見ようと隣接する五社大明神に入る。散り際の桜の並木越しに倉庫を堪能した後、ついぞと思い本堂へ視線を移す。瓦屋根の上に乗ったスピーカーが印象的な社殿。鎌倉初期の銅鐘から現代のスピーカーへ。時代とともに道具は変わっても人の営みに必要なものはあまり変化しないのかな、とぼんやり考える。実はこの神社の境内は奈良時代には大きな寺院があつたようで、当時の瓦や礎石が発見されている。正式名称は伝わっていないため、同集落にある寺院跡ということで、ここは「大願寺廃寺跡」と呼ばれているという。

古墳と古戦場跡

最初に歩いてきた道に戻り、さらに小城方面に10分ちよつと。「横馬場入口」という看板を右に折れてみる。山手に向かっていた道が大きく左に曲がる。カーブの先、左手に現れたのは、どうやら古墳のようだ。さきほどのカーブはこの古墳の形に沿って曲がっていたようだ。もつと近くで見たり、あぜ道のような小道に入る。横からみたら丸と四角。結構、大きい。周囲を歩き、大きな道に出る。道沿いには入口らしきものがあつたが扉は閉じている。注意書きがあり、イノシシ等侵入防止のため入出時には扉を閉めるように、とのこと。きちんと扉を閉めて、木で出来た歩道を行く。古墳の一番南側から登る。ミカン畑で覆われた山並みが見渡せる。ここ「船塚古墳」は主軸の長さ114mと県内最大の前方後円墳だ。上から見ると周囲を10m以上の濠に囲まれていることがわかる。出来たのは5世紀後半とされている。埴輪や大きな勾玉も出土しているという。大きな権力者が埋葬されているのだろうか。北側の丸い部分の上に立って、山手を見ると小さな展望台のようなものがあつた。あそこなら古墳の全体が見れるかもしれない。

古墳を降り、南側の道を少し戻ると

案内板があり「赤坂展望台」という字が指す方へ左に曲がる。みかん畑の間の道を登っていく。1km弱で展望台に辿りつく。眼下には佐賀平野が見渡せる。古墳の方を見ると、教科書通り確かに鍵穴の形だ。きちんと左右対称だ。1600年前にこれだけ大きなものを正確に作ったという人たちに驚く。古墳の先には佐賀平野が広がる。景色がよければ雲仙が見えるだろうが霞がかって見えなかった。ふと展望台の脇にある案内版に気づく。この場所には戦国時代1570年に、佐賀の龍造寺氏と大分の友友氏が戦った「今山古戦場跡」だという。

戦国時代、北部九州を手中にしていた大友宗麟は8万の大軍勢を率いて佐賀に攻め込んだ。佐賀城を睨みつつ、宗麟は約3万の兵をこの地に配置した。対する龍造寺は総勢5千弱。圧倒的に不利な形勢の中、龍造寺の家臣・鍋島直茂（当時信昌、のちの佐賀藩祖）は奇襲作戦を決行する。手勢は約7百。夜の闇に紛れて崖を乗り越え、大友側の本陣を目指す。そんなことは露知らず、数で勝る大友勢は前祝いにと酒宴を開いていたという。すっかり油断した大友勢に襲いかかる鍋島勢。大友側は総大将が打ち取られる大打撃を受けて敗走したという。この「九州の桶狭間」とも呼ばれる戦いを契機

ものが見える。近づいてみると「大久保お台場展望所」の看板と大砲らしきものが見える。この場所は幕末期、佐賀藩がカノン砲の性能テストをするために作った砲台跡だという。カノン砲の模型は、さっきまでいた今山周辺を向いていて、そこには「矢先」という目標があり、今でも弾丸の遺物が出土するという。この台場から目標までは約500m。台場は残り2カ所あり、一番遠いものは1.3km離れた場所にあったという。ここでのテストに合格した大砲は、明治維新を支える大きな力になった。こんな武器があれば直茂も苦労しなくて良かったのに、と考えていたら、見物人がやってきた。聞くと、この近くにチューリップの美しい花壇があり、それを見た帰りだという。地味な話ばかりなので、少しは色あざやかな写真があった方が楽しいかも。

高速道路脇の道をまっすぐ小城方向に行くとのことだが、高速道路沿いの風景に飽きて、程よい幅のあぜ道に寄り道。おじいちゃんと孫と一緒に農作業をしていた。林に囲まれた集落を20分ほどぶらぶらしたら、色あざやかな花壇があった。アイスクリームの出店もあり、なかなかの賑わい。「ようこそ！今山チューリップ園へ 今山老人クラブ福寿会」の看板の先ではお母さんが子どもをスマホで撮っている。赤、

近代化の実験場

山道を下り、大きなため池を左に見ながら歩く。長崎自動車道まで突き当たったので、そろそろ帰ろうかと、大和インター方向に向かう。数分歩くと広場の中になにやらオブジェのような

に龍造寺氏は勢力を盛り返し、殊勲を挙げた直茂は家中での発言権が強くなっていった。佐賀鍋島藩につながる大きなターニングポイントだった。直茂勢は奇襲する際、各々鬼面をかぶり、太鼓を打ち鳴らしたと伝えられる。それが面浮立のルーツになったという説もある。

展望台より上にあるという大友公園を目指す。道は急に険しくなる。ゆっくり歩いても足がつりそうな傾斜だ。上に登るに連れ、角度はさらに厳しくなる。こんなところを鎧や武器を持って一気に上がっていくとは、戦国時代じゃなくて良かった。展望台から800mくらいなのに、通常の倍である30分以上かかってようやく道は山の尾根にたどり着く。左手に曲がると、鬱蒼とした森の中にコンクリートのベンチと石碑のようなものがあつた。イノシシ対策の柵があつて近くにいけないが、どうやらここが目的地らしい。石碑に目をこらすと、大友側の総大将のお墓のようだった。

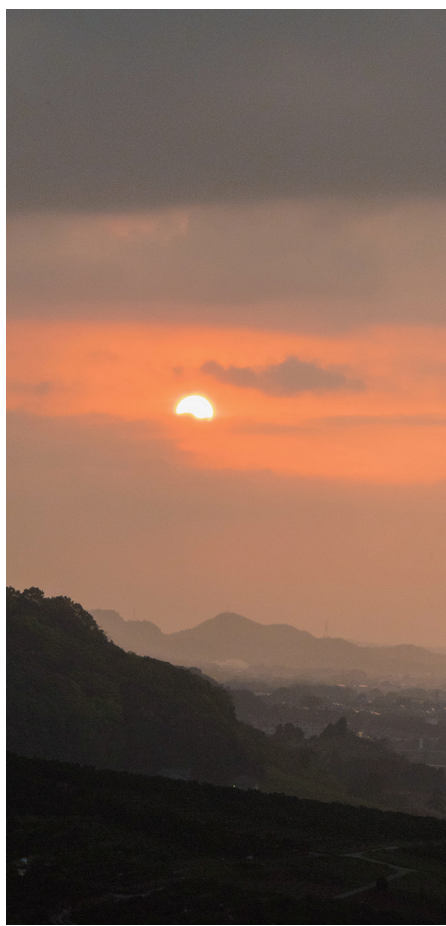


白、紫、黄色の花々が緑の中に踊っていた。

道を挟んだところにはなにやら大きな石碑が。「香田啓三翁頌徳碑」と彫られている。こういう地元の偉人は大好物である。調べてみると香田啓三さんは明治時代1894年生まれで、川上を有数のミカン産地に導いた人だという。山間部でのミカン栽培にいち早く取り組み、果実専門の農協を立ち上げ販売先を全国に拡大した。現在、川上地区では「あんみつ姫」というブランドミカンを栽培しているという。有機堆肥をたっぷり使うとともに、土中の水分も厳密にコントロール。さらに2-3カ月をかけて長期熟成させることで、他産地には真似できない味に仕上げていくという。きつとあのキュートな倉庫で熟成されているんだろう。

良縁にご利益

石碑の横には「男女神社」の鳥居がある。参道らしき道がまっすぐ伸びている。さすがに疲れ果てていたが、すぐ近くのようなので行ってみることに。民家に挟まれた道をぶらぶら行くと「男女神社」の案内板があり、左向きの矢印がある。えっこの辺じゃないの？戸惑いつつも左に曲がる。小さな川を渡ると、なだらかな坂道になり一面ミカン畑に。10分ほど上がつて行くがなかなか神社は見えてこない。引き返そうとも思ったが、ここまで来たら意地だ。キツくなる傾斜に根をあげつつもゆっくり上がっていく。さらに10分歩き、ようやく大きな樹に囲まれた神社が見えてきた。男女神社は650年以上前に創建されたという古刹だが、今山の戦いで焼けてしまったという。



その後、1654年に再建された。境内には次々に参拝者がやってくる。なんでも縁結びなどにご利益があるらしく、女性を中心に密かな人気があるらしい。境内には「招霊の木」という巨木があり、勇壮な幹が神域の空気を引き締めている。朝日の名所ということなので、後日訪問してみた。午前6時前に着くと同時に大粒の雨。しばらく待っていたが諦めて帰ろうとしたが、一瞬晴れ間がのぞく。金立山方面に昇った太陽が佐賀平野を赤く染めていた。

歩いた距離は計11km。運動不足の身としてはもはや「散歩」ではない気がするが、史蹟や集落がちょうど良い距離であり疲労感をあまり感じなかった（もちろん翌日は筋肉痛で大変なことに...）。ルートを決めずぶらぶら歩いたからこそ、これだけ歩くことができたとも言える。思いがけず長い時間がかかってしまう可能性が高いので、お弁当などを持参したほうが良いかも。

古代から現代まで長い歴史を持つ大和町川上地区。同地区公民館ではいろいろなテーマで川上地区を歩く「ゆつとら〜と川上フットパスモニターツアー」を企画しているという。ぜひ自然の息吹を感じながら、千五百年の歴史をゆっくり味わってほしい。

ゆつとら〜と川上フットパス参加者募集!!

モニターツアー

初夏の川上を散策しませんか？
地元スタッフがコースのご案内を致します。

水辺のお散歩と農村の暮らし

5/21(日) 9:30~

集合場所：與止日女神社
参加料：100円（中学生以下無料）

《主な見どころ》
竹林・石井樋公園 / 農業団地 / 一の鳥居 など

直正公ゆかりの川上巡り

約8kmの健脚者向けコース

5/6(土) 9:30~

集合場所：與止日女神社
参加料：100円（中学生以下無料）

《主な見どころ》
御墓所・十可亭 / 永山貞武墓所など

花しょうぶと古代ロマン

6/10(土) 9:30~

集合場所：花しょうぶ園
参加料：100円（中学生以下無料）

《主な見どころ》
花しょうぶ園(有料)
お台場展望所 / 今山古戦場 / 船塚古墳 など

ミカンの花咲く丘と絶景!! 佐賀平野!

5/14(日) 9:30~

集合場所：男女神社
参加料：100円（中学生以下無料）

《主な見どころ》みかんの花の香り / 絶景！佐賀平野 / 横馬場の歴史など

花しょうぶと農村の原風景

約6kmの初心者向けコース

6/11(日) 9:30~

集合場所：花しょうぶ園
参加料：100円（中学生以下無料）

《主な見どころ》花しょうぶ園(有料) / 千人塚・於保城 / 四天さん など

※雨天の場合は中止となります。 ※当日は集合場所に受付をお願いします。

お問い合わせは **川上校区公民館 TEL 0952-62-5775**